



Newsletter

No. 25 March 31 2017

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

特別寄稿

チリ拠点長就任にあたり

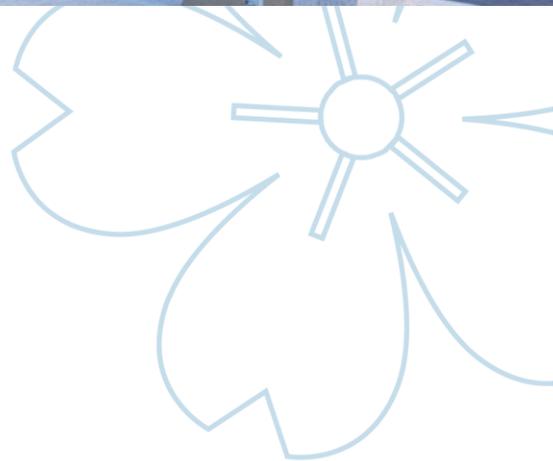
平成29年2月より東京医科歯科大学チリ拠点長を拝命いたしました、北川昌伸でございます。平成17年より東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科の包括病理学分野を担当させていただいております。河野前拠点長が永年担ってこられたチリ拠点の活動の歴史を勉強させていただき、更にチリを含めた南米各国との交流が進むよう最大限の努力をする所存です。チリとの交流に関しては、大学執行部として田中雄二郎理事がご担当下さっています。田中理事のご指導の下、チリ拠点を大学の戦略に沿った国際展開活動の要とできるよう運営する必要があると考えます。



東京医科歯科大学は「日本の医療界のリーダーから世界の医療界のリーダーへ」の発展を目指して、日々努力を重ねております。スーパーグローバル大学創成支援事業に採択された本学は、これまで充実させてきた学部内でのグローバル化教育の一環としてハーバード大学、インペリアルカレッジをはじめとする多くの海外大学に多数の学生を派遣するとともに、チリ、タイ、ガーナに3つの海外研究拠点を設けて教育・研究活動を展開しています。チリ拠点はジョイント・ディグリー・プログラム(JDP)や大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)といった本学の重要なプロジェクトを行う上での要所として果たす役割や責任は非常に大きなものと考えております。プロジェクトの円滑な運営を行うとともにさらに新たな活動の可能性の模索も含めて考えて参りたいと思います。

チリ拠点はこれまで河野前拠点長の監督のもと、多くの方々のご支援・ご協力の中で重要な業務を効率よく遂行して参りました。本ニュースレターでも多くの方々のご活躍の様子が数多く配信されております。現在は小田柿智之助教が駐在し、早川美貴事務補佐員とともに任に当たっておられますが、今後もチリ拠点の重要度は増すばかりと思われま。副拠点長に就任された植竹宏之教授のお力も大いにお借りして更なる発展を目指したいと考えております。宜しくご支援・ご指導賜りますようお願い申し上げます。

チリ拠点長
医学部長 北川昌伸



LACRC TMDU IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



Contents

ご挨拶	1
JDPプログラム	2
PRENECの進捗状況	3
活動報告	5

ジョイント・ディグリー・プログラム

本年2月6日、LACRCの小田柿助教が一時帰国した際に、チリ拠点の新拠点長となられた北川教授と、チリでの活動状況や今後の展開について意見交換をしましたので、その様子をお伝えいたします。

また、これまでジョイント・ディグリー・プログラム(以下、JDP)を総括する役割を北川教授が担っておりましたが、この度、北川教授が医学部長及び新拠点長に就任されたことから、本年4月からは小嶋一幸教授が新たに担当されることになりました。

新拠点長への活動報告



左より北川医学部長、小田柿助教

小田柿助教が、新拠点長である北川医学部長にPRENECの活動状況やプロジェクトセメスターの進捗状況等を報告しました。

また、4月の本学教員のJDP会議のためのチリ出張などを含めた今後の予定や各プロジェクトの展開などについて意見交換を致しました。

今後も本学と拠点で適宜情報を共有し、連携しながら、チリにおける各プロジェクトを進めていきます。

本学の国際活動に関する記事掲載

3月下旬に、JDPやPRENEC等の中南米諸国における本学の活動が、日本学術振興会サンフランシスコ研究連絡センターの第42号ニュースレターで紹介されました。

このニュースレターは、日米の学術関係機関の研究者等を対象としたものであり、本学の活動が海外でも周知されることが期待されます。

http://www.jspsusa-sf.org/newsletter_j.html



JSPS SF Newsletter | Vol. 42

(Continued from page 8)

Secondly, TMDU offers a research program named "Project Semester" for 4th-year medical undergraduate students who have completed major subjects and experiments. The aim is to cultivate fundamental skills that are necessary for medical doctors who have a scientific perspective. Students study and conduct their research at TMDU or overseas collaborating institutions, such as Imperial College, the University of Chile and Clinica Las Condes (CLC), Chulalongkorn University, and the Nagatsi Memorial Institute for Medical Research, University of Illinois. Not only learning medicine abroad, but also facing the challenge of communicating with people from different cultures will benefit students in their future careers.

Thirdly, in January 2010, TMDU, Clinica Las Condes and the Ministry of Health of Chile (MINSAL) signed an international agreement to implement the "National Colorectal Cancer Screening Project" (PRENEC) with the aim of reducing colorectal cancer mortality rates in Chile. That year, TMDU also established the Latin America Collaborative Research Center (LACRC) which is one of three TMDU Overseas Satellite Offices together with the ones in Ghana and Thailand. LACRC is located within CLC and currently operates with one professional endoscopist from TMDU. Over the years, TMDU has dispatched several experts to Chile. As a result, Chilean professionals have been trained in endoscopic techniques and pathological diagnosis by TMDU experts, taking advantage of Japanese knowledge and technology, and thus creating a precedent in terms of diagnosis and effective treatment for colorectal cancer.



State of endoscopic guidance at the University of Chile



Representatives from the University of Chile paying a

日本学術振興会サンフランシスコ研究連絡センターニュースレターより抜粋

PRENECの進捗状況

大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の最新情報をご報告いたします。現在、プンタ・アレナス、バルパライソ、サンティアゴの3都市において免疫学的便潜血反応検査(iFOBT)を用いた検診プログラムが進行しており、上記3都市に加えて、バルディビア、オソルノの2都市では免疫学的便潜血反応検査(iFOBT)の登録者数を伸ばしております。またPRENECはチリ国内のみにとどまらず、他の南米諸国へと動きは広まりつつあり、本号ではその様子をお伝えしてまいります。

第三国研修後のモニタリング出張

昨年8月に開催されたJICA・AGCID(国際協力庁)共催の第三国研修後の成果、進捗状況を評価する目的で、LACRCからは小田柿助教、CLCからロペス医師、ポンセ看護師が本年1月5・6日に研修参加国のパラグアイとボリビアを訪れました。パラグアイでは、第三国研修後にPRENEC参加への準備を順調に進めてきており、今回の出張の際に、パラグアイ保健省、パラグアイ国立がん研究所及びCLCの三者間にて大腸がん早期発見パイロット・プロジェクトへ参加する協定を締結しました。このプロジェクト終了後に正式なPRENECへの参加が予定されています。一方、ボリビアにおいても、パイロット・プロジェクトに関する協定を早急に締結すべく準備を進めているとの報告がありました。



パラグアイにおける会食の様子



ボリビアにおける会議の様子

ロペス医師の本学訪問

2017年度の体制に関する会議のために、PRENECのチリ側の責任者であるロペス医師が、3月30日に本学を訪問しました。本会議には、田中理事、北川医学部長、植竹教授、岡田講師、伊藤助教、CLCから本学へ留学中のサラテ医師が参加し、今年度の第三国研修やENDOSURについても協議されました。

また、本会議終了後に、田中理事よりロペス医師に客員教授辞令が授与されました。



会議参加者による記念撮影



田中理事による客員教授辞令授与の様子

PRENEC啓発活動



チリ国内ニュース番組「24H」

本年3月、大腸がんについての知識を広めるため、チリの主要テレビ局であるTVNのニュース番組「24H」にロペス医師が出演しました。番組内では大腸がんの症状や治療方法が取り上げられたほか、PRENECの活動が紹介されました。

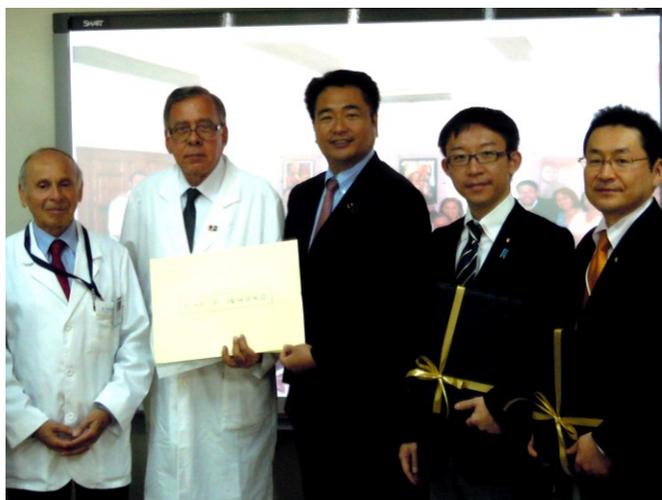
こういった広報活動を続けることで、チリ国内におけるPRENECの更なる拡大が期待されます。

LACRC活動報告

ODA調査団によるサン・ボルハ病院視察

本年2月28日、政府開発援助(以下ODA)調査団がサン・ボルハ病院日智消化器病研究所に視察に訪れました。今回の視察は、ODAをめぐる諸問題や当地での活用度合いを調査する目的にて行われ、松下参議院議員、中西参議院議員、磯崎参議院議員がODA調査団として来智しました。研究所関係者の他、在チリ日本大使館より二階大使、CLCよりロペス医師、ポンセ看護師、LACRCより小田柿助教等が参加しました。

現場視察に加えて、エステラ所長より、研究所と我が国の40年間の協力の歴史概要について説明が行われました。その際に、本学が2010年から現在まで協力してきているPRENECについても言及され、同病院が臨床研究の場となっていることが強調されました。



左よりペラ院長、エステラ所長、松下参議院議員、中西参議院議員、磯崎参議院議員



ODA調査団及び二階大使との記念撮影

編集後記

この度、文部科学省研究奨学制度にて平成29年4月より名古屋大学大学院国際開発研究科へ約2年半留学することとなりました。今まで携わらせていただいたLACRCにおける活動を通して、国際関係・開発をさらに深めたいと思い、今回の留学を決心致しました。

名古屋行を数日後に控えて、期待と不安、寂しさが入り混じった複雑な心境ですが、この場をお借りして、かけがえのないこの4年間に、一緒に働く機会を持たた皆様に心より感謝を申し上げたいです。皆様より学んだこと、一緒に過ごした楽しい時間は決して忘れることなく、日本での留学を終えた後は、またLACRCで皆様と再会し、一緒に働ければと思っています。皆様のことは私の記憶と心に深く刻み込まれていることは言うまでもありません。ありがとうございました。またお会いしましょう！(ハイメ・ウレホラ)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No. 25, March 2017

[発行日] 2017年3月31日

[制作] Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Tel: (56-2) 2610 3780
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp